

# 文藝言語研究

## 文 藝 篇

### 目 次

『貧者の息子』の語り (1) ——物語における現在形の多様な効果——	青 柳 悦 子	1
「14 日派」に学ぶ	秋 山 学	71
John Lyly の後期喜劇に関わる政治的環境と少年劇団 —— <i>Midas</i> (1589) を事例として	佐 野 隆 弥	89
Growing Old in Europe Antonio Tabucchi's "Bucharest Hasn't Changed a Bit"	Herrad Heselhaus	107

## 言 語 篇

### 目 次

日本語受動文の統語構造再考 (2)	加 賀 信 広	133
Теоретические основы исследования языковой картины мира в аспекте лингвокультурологии	Жукова М.Ю., Като Ю	163
動作動詞句を形成する「形容詞ク形+する」	田 川 拓 海	169
外来語名詞「タイプ」の助数詞への進出	田 中 佑	183

2017

71

筑波大学大学院

人文社会科学研究所 文芸・言語専攻

## 文芸・言語専攻名簿

相澤啓一	青木三郎	青柳悦子	秋山佳奈子
秋山学	池田潤	池田晋	石田尊
石田プリシラ	石塚修	伊藤眞	入山美保
白山利信	大倉浩	大矢俊明	小川美登里
加賀信広	加藤百合	金谷優	○稀代麻也子
木田剛	清登典子	金仁和	窪田悠介
◎小松建男	コリンズ, クリステン・J	齋藤一	佐野隆弥
澤田浩子	島田雅晴	島田康行	杉本武
田川拓海	田中佑	竹沢幸一	谷口孝介
近本謙介	ツィガルニツカヤ, エレナ	○那須昭夫	沼田善子
橋本修	馬場美佳	菱川邦俊	一二三朋子
廣瀬幸生	ブリッド, ジェレミー	ヘーゼルハウス, ヘト	増尾弘美
松崎寛	松下聖	宮本エジソン正	宮本陽一郎
本井牧子	矢澤真人	吉原ゆかり	和氣愛仁
鷺津浩子	和田尚明	渡邊淳也	

(◎印は編集委員長 ○は編集委員)

# 『文藝言語研究』 投稿規定

## 1. 投稿資格

『文藝言語研究』に投稿資格を有する者は、以下の通りである。

- (1) 文芸・言語専攻の構成員
- (2) 文芸・言語専攻教育会議が認めた者（このことについては、紀要編集委員会が提案し、専攻教育会議で決定する）

## 2. 論文形式

- ・論文の形式については、文学・言語学関係の分野の国際的あるいは日本国内の全国的な学会誌・専門誌において用いられているものを使用する。
- ・論文の長さについては、特に規定を設けない。ただし、論文が長い場合には、紀要編集委員会の判断により分割掲載を行うことがある。

## 3. 投稿方法

- ・投稿を行うには、定められた期限までに紀要編集委員会に申し込み用紙を提出する。
- ・投稿に際しては、電子媒体ファイルとハードコピー2部に投稿票を添えて紀要編集委員会に提出する。

## 4. 採否の決定

- ・投稿原稿の採否は、紀要編集委員会が指名する査読者による査読を経て、紀要編集委員会で決定し、投稿者に報告する。
- ・採否決定について不服がある場合、投稿者は紀要編集委員会に申し立てができる。投稿者からの不服申し立てに対しては、紀要編集委員会が新たな査読者に査読を依頼してさらに審査を行い、最終決定を行う。

## 5. その他

詳細は別途定める。

(平成 28 年 7 月 13 日教育会議修正)

# 『文藝言語研究』 査読方法に関する申し合わせ

## 1. 査読者の選定

- ・ 査読者の指名：査読者は、紀要編集委員会が指名する。
- ・ 査読者数：査読者は1論文につき原則2名とする。
- ・ 査読者の条件：査読者は原則として文芸・言語専攻の構成員の中から選ぶこととする。ただし、専攻内に適切な査読者を得られない場合は外部に依頼することができる。

## 2. 査読判定方法

- ・ 論文の採否は査読者の査読結果報告に基づき、紀要編集委員会が決定する。
- ・ 査読者は所定の書式に従って査読報告書を作成し、紀要編集委員会に査読結果を報告する。
- ・ 査読の判定は、採用・不採用のいずれかとする。
- ・ 査読者の判定が一致しない場合は、両者の査読報告をもとに紀要編集委員会が採否を決定する。
- ・ 不採用の判定の場合には、必ずその理由を具体的に述べる。また、採用の判定の場合には、論文の改善に役立つコメントを加えることができる。
- ・ 査読者によって不採用の判定が与えられた場合、紀要編集委員会は投稿者にその結果を通知し、投稿者に不服がある場合には、さらに2名の査読者を追加して、再査読を行う。もとの査読者と再査読者の査読報告をもとに紀要編集委員会が採否を決定する。（ただし、採用されても、時間的制約により次号掲載とする。）

## 3. 判定基準

- ・ 文芸・言語専攻の紀要論文としてふさわしい内容、水準、形式を備えているかどうかに基づき採否の判定を行う。

## 4. 紀要の筑波大学電子図書館システムへの登録について

- ・ 平成10年度以降の紀要に掲載される論文等は、筑波大学電子図書館に登録する。

- ・登録されたデータの公開方法等に関する利用許諾要件は、「筑波大学電子図書館システムへの登録に関する実施要項」に拠る。

## 5. その他

- ・査読者の公表：査読者については、氏名と所属を編集後記に明記する。

(平成 10 年 5 月 13 日教員会議)

(平成 19 年 7 月 11 日教員会議修正)

(平成 28 年 7 月 13 日教育会議修正)

## 『文藝言語研究』71巻 査読委員

秋 山 学 石 田 尊 白 山 利 信

稀 代 麻也子 小 松 建 男 齋 藤 一

佐 野 隆 弥 那 須 昭 夫 沼 田 善 子

増 尾 弘 美

(以上 文芸・言語専攻)

## 編 集 後 記

『文藝言語研究』第71巻をお届けします。前巻を重苦しい思いで刊行しました。71巻は査読体制を見直し、新たな『文藝言語研究』として再出版いたします。多くの論考をお寄せいただいた方々、査読をお引き受けいただいた皆様に御礼申し上げます。

以前から「水随方円器」の出典が気になっているのですが、未だに納得できる説明を見たことがありません。たまたま『大蔵經』を検索したところ、『大日經疏鈔』にこの句があるのを見つけました。一般的に理解されている意味とは少し違うようにも思いますが、わたしの知る限りでは最も古い用例のようです。先の予測がつきにくい時代となり、古人（左兵衛督直義）の、

うきながら人のためそと思はすは何を世にふるなくさめにせん

という歌が身にしみますが、できうることならば水のように時と処にあわせて様々にその姿かたちを変えながらも、常に本性は変わらぬものでありたいと思います。

(小松 建男)

---

### 文藝言語研究（第71巻）

2017年3月31日発行

発 行 所 筑波大学大学院  
人文社会科学研究所 文芸・言語専攻

茨城県つくば市天王台1丁目1番地  
電 話 (029)853-4340 (〒305-8571)

印 刷 所 筑波印刷情報サービスセンター協同組合

---

# ***STUDIES IN LANGUAGE AND LITERATURE***

## Literature

### CONTENTS

Sur la narration dans <i>Le Fils du pauvre</i> (1) : effets du présent verbal dans le récit .....	AOYAGI Etsuko 1
Seguendo le tracce dei “Quartodecimani” .....	AKIYAMA Manabu 71
John Lyly’s <i>Midas</i> (1589) and Its Political Environment: The Martin Marprelate Controversy and Its Effect on the Children of Paul’s .....	SANO Takaya 89
Growing Old in Europe Antonio Tabucchi’s “Bucharest Hasn’t Changed a Bit” Language .....	HESELHAUS, Herrad 107

## Language

### CONTENTS

The Syntactic Structure of Japanese Passives Revisited (2) .....	KAGA Nobuhiro 133
Theoretical Foundations of the World’s Linguistic Perception Research as Part of the Linguo-cultural Studies .....	ZHUKOVA Marina, KATO Yuri 163
Action Verb Phrases Derived from Adjective- <i>ku su</i> in Japanese .....	TAGAWA Takumi 169
Emergence of Loanwords “Taipu (Type)” as Japanese Classifiers .....	TANAKA Yu 183

2017

71

Doctoral Program in Literature and Linguistics

University of Tsukuba